

第 4 回葛尾村復興委員会

次 第

日 時：平成 26 年 5 月 30 日（金）

13：30～16：00

場 所：葛尾村三春出張所 大会議室

1. 開会

5 分

2. あいさつ

3. 議事

(1) かつらお再生戦略プラン（素案）について 【説明】

40 分

- ①本計画素案の位置づけと今後の予定 資料 1
- ②計画素案の提示 資料 2
- ③パブリックコメント等の結果概要と反映方針 資料 4（※）

(2) 計画素案に対する意見等について 【意見交換】

100
分

■議論をいただきたい主なポイント

- ①計画素案に対する意見（追加・修正すべき点、など）
- ②計画の実現に向けての意見
- ・ 今後の実現に向けて留意すべき事項
 - ・ 早期実施が望まれる取り組み、など

4. その他

5 分

5. 閉会

【配布資料】

- 資料 1 第 4 回葛尾村復興委員会・議事次第
- 議事次第
 - 計画素案の位置づけと今後の予定
 - 【補足資料①】第 4 回地区協議会における主な意見の概要
 - 【補足資料②】第 3 回復興委員会における主な意見の概要
 - 【参考①】第 4 回地区協議会の記録
 - 【参考②】第 3 回復興委員会の記録
- 資料 2 かつらお再生戦略プラン（概要版案）
- 資料 3 かつらお再生戦略プラン（素案）
- 資料 4 パブリックコメント等の結果概要について（※）
- 第 5 回地区協議会、パブリックコメントの結果と反映方針
- （注）※印の資料については当日配布の予定です。

■ 計画素案の位置づけと今後の予定

1) かつらお再生戦略プランの位置づけ

○葛尾村復興計画（第1次・平成24年12月）の実現に向けて、より具体的かつ段階的な復興再生の施策・事業の方向をまとめたものです。

2) 検討の経緯

○村民の意向を十分に踏まえた計画となるよう、地区協議会、テーマ別分科会、住民懇談会など、様々な住民対話を重ね検討を進めてきました。

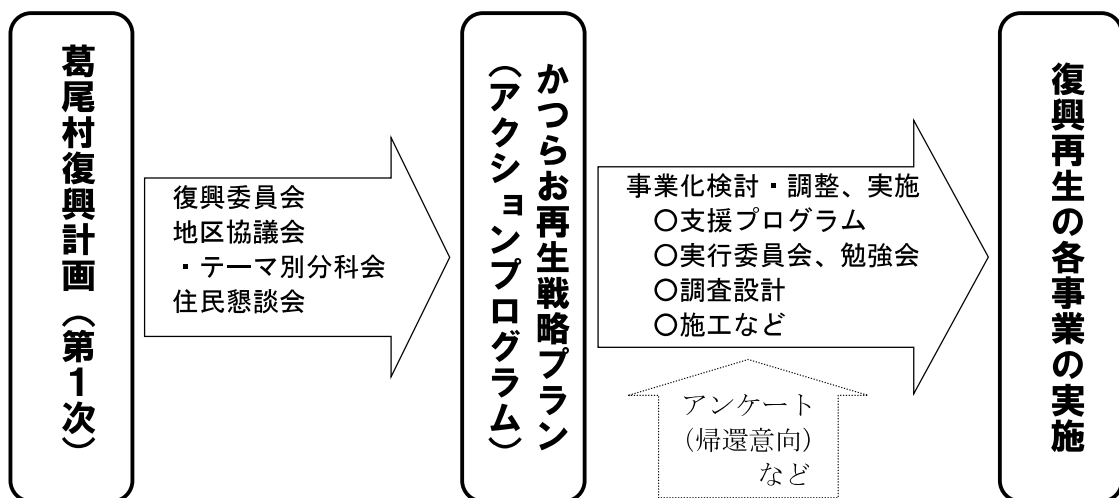
○前回の第4回地区協議会（ブロック別、3/12～17開催）および第3回復興委員会（3/24開催）における意見を踏まえ、計画素案を作成・とりまとめたものです。

3) 今後の予定

○上記計画素案に基づき、第5回地区協議会（5/25(日)）、全世帯へのパブリックコメント（5/15(木)～5/29(木)）、および今回の第4回復興委員会における意見を踏まえ、6月中を目途に計画を策定する方針です。

○現在、18歳以上の全村民を対象とする“葛尾村 復興まちづくり アンケート調査”を実施中（返送期限 5/23(金)）ですが、本計画策定後の具体的な復興再生の取組みに反映していくものです。

○今後は、このアンケート調査結果も踏まえつつ、葛尾村復興計画（第1次）及び本計画に基づき、事業化検討・調整を進め、必要な施策・事業を段階的に実施していく方針です。



※逐次改訂

【補足資料①】 第4回地区協議会における主な意見の概要

「葛尾村の復興再生に向けての骨子案」について、第4回地区協議会(3/12-15,17 開催)の中では、様々な意見・要望・アイデア等が出されました。

(詳細な意見の内容は、「【参考①】 第4回地区協議会の記録」を参照ください)

全体的には大きな反対意見はなかったものの、主要施策事業の精査・具体化に向けては、特に、以下の意見を十分に踏まえつつ、今後の取組みを進めていきます。

NO	意見の概要
1	●早期事業を実践し、復興への希望の発信を ・全部実現するのは時間がかかるため、段階的な事業スケジュールを示してほしい。 ・帰還への関心や意欲を高めていくためにも、早く事業を進めてほしい。
2	●地元の熱意を活かし伸ばす取組みを ・早期事業意欲の高い有志を集め、地元主体の事業を支援・促進していくべき。 ・各地区で、各自ができること、助け合えることを本音で話し合い、各地区が主体的に動き始めるような取組みも進めていくべき。
3	●生活再建への対策・支援の充実を ・帰還しても生活(収入)の安定が図れないと戻れないため、土地の荒廃・風評被害等に伴う減収等に対する補償や、雇用の場の確保、土地の有効活用や生産・管理体制の支援等について、提示してほしい。
4	●村外(外部)からの支援の強化を ・村内の取組みだけでは限界があるので、企業誘致等の外部資本等の導入を強化してほしい。 ・外部からのサポート体制を強化してほしい。
5	●仮置き場に留意した有効な対策を ・仮置き場は当面の帰還への大きな障害・ブレーキとなるため、段階的な整備方向へと見直ししてほしい。 ・景観対策や覆土による栽培など、マイナスをプラスに転じる策を講じ、当面の帰還を支援すべき。 ・仮置き場は、問題が多いため、白紙に戻せないだろうか。
6	●今後実施するアンケート調査への十分な配慮を ・具体的な事業参画意向を問い、事業化促進を後押しするような有効な調査としてほしい。 ・回収率が上がるよう、調査の重要性を明示するとともに、少ない頁数で、簡潔で、回答しやすい(○記入式)内容とすべき。 ・世帯主でなく、一定年齢以上(高校生以上など)の全村民への調査とすべき。

【補足資料②】 第3回復興委員会における主な意見の概要

「かつらお再生戦略プラン(骨子案)」について、第3回復興委員会(3/24開催)の中では、様々な意見・要望・アイデア等が出されました。

(詳細な意見の内容は、「【参考②】 第3回復興委員会の記録」を参照ください)

以下の意見を十分に踏まえつつ、今後の主要施策事業の精査・具体化を進めていきます。

NO	意見の概要
1	●葛尾村を訪れる機会をつくるなど、可能なことから実施すべき ・平成 26 年度は、せせらぎ荘を活用するなど、葛尾村に戻っていく、訪れる機会をつくっていけないか。 ・可能なことから実現して、葛尾の認知度を上げていくべき。帰還するのが1年遅れて、住民の意欲がなくなる。人に知ってもらいと、反響がでてる。動いて知っていただくことが大事だ。
2	●子育て・教育の施策を考えるべき、若い世代の意見をまとめてほしい ・とりあえずは高齢者に魅力的な環境づくりを優先すべきだと思うが、教育など、若者のための施策も考えていくべき。 ・復興を考えると、教育は未来に向けての要である。 ・若い人たちの意見がない。若い世代が“こうするべきだ”という意見を復興委員会でも取り上げて、まとめてほしい。
3	●商店、農畜産業の再開の判断がつかない。再開のための支援がほしい ・生活（商売）していくための支援があると、やる気になる。 ・店舗を再開して、採算がとれないから「閉める」というわけにもいかない。「村民が帰ってから」なのか、「我々が先に帰るのか」判断できない。 ・今回の雪で畜産施設が全壊した。いまのところどうしていくのかわからない状態だ。 ⇒いままでは村全体の復興まちづくりに対して考えた。平成 26 年度は帰還に向けたプログラムを個別に考えていく。(委員長)
4	●村内でのコンビニなど、ビジネスを考えるべき ・除染も商売になるし、店舗があることは復興のPR効果になる。葛尾村も考えていかなくてはいいけない。富岡町、檜葉町、川内村ではコンビニが再開した。 ・平成 26 年度には、ビジネスを始めることも再生戦略プランのなかで考えていくべき。“やったほうがよい”から、“やろう”へ展開していく。
5	●安全な水の確保を優先してほしい ・水の安全性が最初にあって、この計画を取り組もうとなる。水がいつまでに安全になるのか。 ⇒水の安全確保の問題については、国と東京電力との話し合いを続けている。いかに早く進めていくのかがポイントだと考えている。(村)

6	●水の安全に対する勉強・話し合いが必要である ・水に対する認識をきちんとしてほしい。実際、水は地球上で放射能を抑えるのに一番効果があるものである。水と放射能が混ざることはない。 ・福島原発の汚染水はどうか、水に溶けていないといえるのか。 ⇒“私は蛇がきらい”と同じ理論だ。理屈では説明できないところがある。繰り返し勉強、話し合いをするしかない。(委員長) ⇒村民が安心を得られるよう、東京電力と話を進めていきたい。(村)
7	●本当の線量の数値が知りたい ・私たちが知りたいのは本当の数値である。水の安全の受け取り方、帰還の考え方、10人いれば10人が違う。家族でも違う。各行政区にひとつづら測定器を、どこも同じ機械を置いて、本当の数値がわかるようにしてほしい。
8	●農作物のモニタリングの徹底、集落単位で農業再生を考えていくべき ・農作物のモニタリングを、集落単位などで徹底していくべき。 ・農業全体については、村民の方々、自らが考えて動いていただく必要がある。補助事業もかゆいところに手が届くほど制度が充実され、共同であればいろいろできるだろう。
9	●戻れない(自立できない)高齢者も多い。二地域居住の村民にも支援が必要である ・高齢者の健康状態が低下し、帰還しても自立した生活が可能か心配な方も多い。例えば、三春町にグループホームをつくるようなことも考えてほしい。 ・二地域居住の考え方で、戻れない方の支援が必要である。



【参考①】 第4回地区協議会の記録

第4回 地区協議会の記録

○夏湯地区・大放地区ブロック.....	P. 7
○落合地区.....	P. 9
○上野川地区・野川地区ブロック.....	P. 11
○野行地区.....	P. 13
○上葛尾地区・下葛尾地区ブロック.....	P. 15
○岩角地区・大笹地区ブロック.....	P. 17
○広谷地地区.....	P. 20

第4回 地区協議会（夏湯地区・大放地区ブロック）の記録

日 時：平成26年3月12日（水）18:00～20:00

会 場：葛尾村役場三春出張所 大会議室

出席者：夏湯地区2名

大放地区6名

同席者：9名（葛尾村：3名、支援機構：6名）

1. 開会

2. あいさつ

（支援機構 大内）

- ・本日はお集まりいただきありがとうございます。
- ・地区協議会、テーマ別分科会で議論を重ねてきた内容を、重点プロジェクトとしてまとめた、まちづくり案を示したい。あくまでイメージで、これから庁内で可能性を検討していくものである。安心して帰還できる環境をめざし、落合地区と各地区の拠点づくりを考えている。
- ・皆さんの想いを述べていただきたい。

3. 議事

（1）復興再生に向けての骨子（素案）について【説明】

支援機構より、資料に基づき説明（省略）

（2）復興再生に向けての骨子（素案）について【意見交換】

重点プロジェクトの内容などについて意見交換を実施した。詳細は次頁のとおり。

主な意見

- 土地を集約していく取組みが大事である
- 再生可能エネルギー、転作、農業体験、6次化などできないか
- 若い人が農業をできるような仕組みをめざす
- 「教える」「ふれあう」「販売」とか楽しそう



4. 閉会

重点プロジェクト、復興再生への取組み（意見交換）

	夏湯・大放 地区	村全体・その他
① 重点プロジェクトの内容について	土地の集約(大事) - 土地の集約化が大事 - 耕地がまとまっていない(分散している)ことが集約化の妨げになっている - 事業参画への意向確認が必要 - 土地の一括管理に、手を上げる人がいるだろうか。役場が取りまとめを - 村民のための米を村内でつくる。農業者、農業機械を集めるべき - 基盤整備のない農地を仮置き場にして、整備済の農地で農業を再開することが効率的 再生可能エネルギー - 農業生産物をエネルギーにして発電すれば効率が良い(たつの市の先行事例あり) - 深井戸を使った地中熱の活用(100mm パイプ、深さ70m) - 電気代をゼロにしたい 若い人が農業できること(大事) - 帰って、はたして若者が農業するのか - 通勤で農業してもよい - 若い人がもどれるようにしないと、計画が「絵に描いた餅」に まちなかに集まって住む(大事) - 公共施設が稼働するのはいつ? 一部でも早期に再開すべき - 一箇所に集まって住むのは商店街のあるところ 基盤整備 - 大放・夏湯は基盤整備ができていない - 今が基盤整備するチャンス 転作 - 農地を転作していくことも考える(補助がいつまでか心配) - 家畜がいれば、転作できる(デントコーンなど) - スイートソルガムは、バイオ燃料、飼料にもなる 農業体験 - 子どもたちに農業を教えたい - 学校のカリキュラムに農業を入れてほしい - 農家民泊 「教える」「ふれあう」ことが楽しい 6次化 - 生産から、販売まで一貫して取り組むべき - 販売とか楽しそう 商店 - 道の駅は、四倉にあるようなものが良い - 販売する施設があれば、やりがいができる 集会所 - 集会所を良くしてほしい - 集まって話をするのが楽しい - 他地区の人とも集まれる場所がほしい	計画できるの? 早く実現を - はたして実現するの? - スピードをもって、できるところから進めるべき - 段階的な整備イメージがほしい - 高齢者が亡くなっている、すぐにできることを 仮置き場 - 地区では3年の期間で仮置き場が決まっている - 仮置き場に良い場所がとられると、農業拠点の妨げ 除染・線量チェック - 夏湯・大放は先行して、夏までに農地除染が終わる - 草地の農地チェックが必要 公共交通 - お年寄りが移動する手段を確保してほしい 若者が少ない - 地区では高校生以下が4人 - 農業体験など、学校教育で葛尾村の魅力を伝えていく 高齢者のまちづくり - お年寄りががんばれるまちづくりをめざしたい - 自宅に戻って(通ってでも)農業をやりたい 畜産むずかしい - 畜産再開は農業ができるようになってから - 粗飼料づくりは、草地の安全が確認できないとだめ
② 復興再生への取組み全般について		

第4回 地区協議会（落合地区）の記録

日 時：平成 26 年 3 月 13 日（木）18:30～20:30

会 場：葛尾村役場三春出張所 大会議室

出席者：7 名

同席者：9 名（葛尾村：3 名、支援機構：6 名）

1. 開会

2. あいさつ

（支援機構 大内）

- ・本日はお集まりいただきありがとうございます。
- ・地区協議会、テーマ別分科会で議論を重ねてきた内容を、重点プロジェクトとしてまとめた、まちづくり案を示したい。あくまでイメージで、これから庁内で可能性を検討していくものである。安心して帰還できる環境をめざし、落合地区と各地区の拠点づくりを考えている。
- ・皆さんの想いを述べていただきたい。

3. 議事

（1）復興再生に向けての骨子（素案）について【説明】

支援機構より、資料に基づき説明（省略）

（2）復興再生に向けての骨子（素案）について【意見交換】

重点プロジェクトの内容などについて意見交換を実施した。詳細は次頁のとおり。

主な意見

- 生活に必要な、山の駅、共同店舗をつくって村民で利用する
- 落合地区に住宅（復興公営住宅、帰還を支援する住宅）をつくる
- 介護施設、中学校の活用などが必要。中長期的には山の開発が必要
- 整備する工程（スケジュール）を示してほしい



4. 閉会

重点プロジェクト、復興再生への取組み（意見交換）

	落合地区	村全体・その他
① 重点プロジェクトの内容について	山の駅、共同店舗(重要) - 道の駅をつくって村民で利用する 「道の駅」ではなく「山の駅」 - 皆が集まる場所、休める場所が必要 - 鮫川村のようなものがほしい - コンビニがあって、金融機関があれば、生活に問題ない - 郵便局はどうなるのか？ - 商店はリスクをとりたくない。共同店舗をつくってほしい 落合地区に集住 - 落合の除染をしっかりと、集まって住むべき - 独居高齢者などが、集まって住めるコミュニケーションを維持する - 限界集落対策として、共同住宅、共同店舗をつくる - 東部地区をサポートする機能を落合につくる - 住んでいる人が少なくなっても、往来を増やすべき 復興公営住宅 - 復興公営住宅が村内に必要である - 計画には「復興公営住宅」を明記してほしい 介護施設 - 有料老人ホームなど、民間の大きな施設を誘致すれば心配が少なくなる - 国の力で介護施設を持ってこられないか 山の開発を - 我々の山をつかって介護施設を誘致したい - 中長期で考えればよいのでは 帰還を支援する住宅など - 村を応援したいという人が宿泊できる場所が必要 - すぐに自宅をリフォームできる人ばかりではない - 村内に仮設住宅のような住宅があればよい 中学校の活用 - 中学校をリフォームして、一時宿泊の施設、大学の合宿所などに活用できないか 研究所の誘致 - 若い人の人づくり、雇用が大事。研究所を誘致する	人が少ないと不安 - 人口が少なければ、医者は戻ってこない。店も戻らない - 近年、田や畑を次の世代に相続していない 助け合いの仕組み - 村に帰っても生活できない - お年寄りが有償で助け合う仕組みが必要 「花いっぱい」など、お年寄りでもできることをやる
② 復興再生への取組み全般について	整備する工程は？ - いつまで何ができるのかははっきりしないと、我々も判断できない。議論のスピードをあげてほしい - 整備する工程表（スケジュール）が知りたい 帰還のサポート - 帰還をめざして準備する段階の支援が必要 - 帰還する場合、最低限の環境（住居、福祉、スタンド、金融など）をまず整備してほしい リフォーム・水道・ごみ - 理想のまちづくりの前段階の支援を - 水道屋が対応してくれない - 太陽光発電で電気代を安く - ごみを持っていくところがない	復興の財源 - 復興の財源をしっかりと確保して - 整備できるのはいまだけ

第4回 地区協議会（上野川地区・野川地区ブロック）の記録

日 時：平成26年3月14日（金）18:30～20:30

会 場：葛尾村役場三春出張所 大会議室

出席者：上野川地区6名

野川地区3名

同席者：7名（葛尾村：3名、支援機構：4名）

1. 開会

2. あいさつ

（支援機構 大内）

- ・本日はお集まりいただきありがとうございます。
- ・地区協議会、テーマ別分科会で議論を重ねてきた内容を、重点プロジェクトとしてまとめた、まちづくり案を示したい。あくまでイメージで、これから庁内で可能性を検討していくものである。安心して帰還できる環境をめざし、落合地区と各地区の拠点づくりを考えている。
- ・皆さんの想いを述べていただきたい。

3. 議事

（1）復興再生に向けての骨子（素案）について【説明】

支援機構より、資料に基づき説明（省略）

（2）復興再生に向けての骨子（素案）について【意見交換】

重点プロジェクトの内容などについて意見交換を実施した。詳細は次頁のとおり。

主な意見

- 農業の法人化、共同農地をやってみる
- できるところ部会をつくり、取り組んでみる
- バイオ作物や、大豆・じゅうねんならつくれる
- 花や作物を植えて。仮置場の美化を行いたい
- 五十人山までつづく大きな花見山をつくったらどうか
- 多目的に使える集会所が必要。共同化も考えてはどうか



4. 閉会

重点プロジェクト、復興再生への取組み（意見交換）

	上野川、野川地区	村全体・その他
① 重点プロジェクトの内容について	農地からバイオ油 ・空いている農地で油をつくる ・農地を荒廃させない。収入にする取組みをしなければいけない ・農地の集積化、製油の工場 ・バイオエタノールをつくれば車の燃料にもなる ・農地の再生には、畜産、再生エネルギーを並行して進めることが必要 ・ボイラーの煙が心配 集落営農・法人化 ・組織をつくって、共同で農業を行う ・仮置き場から離れた、一等農地で共同農業をやってみる ・法人化して、年寄りができること、若者しかできないこと、わけて考える ・機械を専用機にする（専用アタッチメントをつけたまま） ・従前も、上野川・野川で営農改善組合をつくっていた。（かぼちゃ部会、大豆部会など） 畜産の法人化 ・牛をやっていききたい気持ちがある。法人化の牛部門をやりたい 花見山・ロープウェイ ・ちっぽけな花見山ではつまらない。五十人山まで広大にできないか。電車や馬を走らせる ・除染しながら花を植える。収入にもなる ・金剛山からの眺めが良い ・五十人山を観光公園に ・山頂へロープウェイ、各山頂をトレッキングでつなぐ ・馬を飼いたい。村は馬との暮らしから始まっている できるところから部門をつくる ・状況が刻々と変わってきている。当面できることをやっていく ・できることから、ステップアップして取り組んでいく ・怖気づいていては悔しい 集会所(多目的化) ・集会所に多目的に使える部屋がほしい（共同作業（加工）、宿泊、お風呂、料理など） ・野川の集会所は建て替える予定であった。上野川・野川で集会所を共同化することもできるのでは 大豆・じゅうねん(えごま)をつくる ・農地除染後、客土を入れた土では、水稻は無理。大豆ならつくれる。味噌づくりをやりたい ・じゅうねん（えごま）もつくれる 仮置き場の美化 ・米をつくる良い場所が仮置き場になりがっかり。村に帰る意欲が減っている。 ・仮置き場に花を植えて美化を進める（シードではだめ） ・1年草の花を植える。芝桜が良いかも ・上部でバイオ作物をつくれればよい ・帰村までに仮置き場の撤去を ・仮置き場の集約も考えるべき ・再除染をしっかりとってほしい	落合地区に住宅 ・村営住宅がきれいになることをアピールする ・浪江町から葛尾村に住む人もいるのではないかな ・復興住宅も家賃がかかる 道の駅 ・道の駅をつくって蕎麦をたべてほしい（従前から考えはあった） ・拠点ができるなら活用したい。
② 復興再生への取組み全般について	深井戸 ・東電への深井戸の要望徹底 ➢ 水が出ない場合の補償 ➢ 複数本の井戸 ➢ 維持費の補償（1万円/月） モニタリング ・村で線量計を購入した。自分たちで測ることができる	

第4回 地区協議会（野行地区）の記録

日 時：平成26年3月12日（水）18:30～20:30

会 場：狐田仮設集会所

出席者：7名

同席者：7名（葛尾村：2名、支援機構：5名）

1. 開会

2. あいさつ

（支援機構 大内）

- ・本日はお集まりいただきありがとうございます。
- ・地区協議会、テーマ別分科会で議論を重ねてきた内容を、重点プロジェクトとしてまとめた、まちづくり案を示したい。あくまでイメージで、これから庁内で可能性を検討していくものである。安心して帰還できる環境をめざし、落合地区と各地区の拠点づくりを考えている。
- ・皆さんの想いを述べていただきたい。

3. 議事

（1）復興再生に向けての骨子（素案）について【説明】

支援機構より、資料に基づき説明（省略）

（2）復興再生に向けての骨子（素案）について【意見交換】

重点プロジェクトの内容などについて意見交換を実施した。詳細は次頁のとおり。

主な意見

- 復興公営住宅の整備を早くしてほしい
- 計画を確実に実施してほしい。工程が知りたい
- アンケートなどで、帰村や参画意向を細かく確認すべき
- トータルでの介護サービス、教育の充実が必要
- 太陽光発電、介護事業などを、外の企業ではなく、自分達でできないか



4. 閉会

重点プロジェクト、復興再生への取組み（意見交換）

	野行地区	村全体・その他
① 重点プロジェクトの内容について	復興住宅 ・いつまでにかできるのか。住宅整備を優先してほしい ・三春町の復興公営住宅を早く ・仮設住宅の、さらにもう1年は長い。苦痛、ストレス プランを確実に ・計画を確実にやってほしい。実現できるかがポイント ・国、県の事業費をもってくる 花街道 ・風景づくりは、従前もがんばっていた。桜、アジサイなど、枯れてしまったものもある ・花見山も、時間がかかっては、帰る魅力にならない 参画意向を確認 ・皆がやりたいと思う気持ちをもつことが大切 ・事業への参画意向を、住民に聞いていかないといけない 自分たちで事業化 ・太陽光・小水力発電、介護も、外の企業を入れるのではなく、自分たちでやって、収入・雇用をつくっていくべき	アンケート(意向確認)をまめに ・村内の住宅の意向を確認すべきではないか ・アンケートをきめ細かくとってほしい。何か決まるたびに行うべき ・判断材料がどんどん変わる ・意向は世帯主ではなく、個人(15歳以上など)で聞くこともあるのでは ・川内村では戻っていない。なぜ。工場をつくっても収入にならないのでは
② 復興再生への取組み全般について	スケジュールがほしい ・取り組み案は出つくした。スケジュール、工程がないと、参画すべきか、みえてこない ・長い目で考えないと農業はできない 「おたがいさま」事業(自家用車有償運送事業) ・社会福祉協議会がマッチングしている ・生活支援サービス事業で、「タクシー」という名称ではない ・利用者 50 人、運転士 7 人の登録がある。実際の運転士は 2 人くらい 野行地区の除染 ・帰還困難区域の除染の話がでなくなった。なぜか ・地蔵沢の仮置き場について、3年の約束を守ってほしい 村の人口 ・目標 1700 人を指すとしても、人口を増やすためには、外部から人を入れるしかない トータルした介護サービス ・介護施設、教育の充実が大切 ・小中学校でも介護できる人材の教育が必要 ・医師の確保 ・介護スタッフの給与のベースアップ ・大きな施設がなくても、小さな施設をネットワークしていけばよい	熱意がもてない ・今の生活でいっぱい。自分の家、子ども達のことの先もみえない。熱意がもてない ・野行地区は、復興の熱意をもつ以前の段階 ・熱意を持っている人を応援できる体制を考えていくべき 役場職員がビジョンをもってほしい ・役場職員がどうしたいのか。

第4回 地区協議会（上葛尾地区・下葛尾地区ブロック）の記録

日 時：平成26年3月15日（土）13:00～15:00

会 場：葛尾村役場三春出張所 大会議室

出席者：上葛尾地区2名

大放地区5名

同席者：9名（葛尾村：4名、支援機構：5名）

1. 開会

2. あいさつ

（支援機構 大内）

- ・本日はお集まりいただきありがとうございます。
- ・地区協議会、テーマ別分科会で議論を重ねてきた内容を、重点プロジェクトとしてまとめた、まちづくり案を示したい。あくまでイメージで、これから庁内で可能性を検討していくものである。安心して帰還できる環境をめざし、落合地区と各地区の拠点づくりを考えている。
- ・皆さんの想いを述べていただきたい。

3. 議事

（1）復興再生に向けての骨子（素案）について【説明】

支援機構より、資料に基づき説明（省略）

（2）復興再生に向けての骨子（素案）について【意見交換】

重点プロジェクトの内容などについて意見交換を実施した。詳細は次頁のとおり。

主な意見

- 「食」「水」「エネルギー」の村内での確保をめざしたい
- 農業の体系を変えていくことが必要
- 豆類、バイオ作物など、転作を考えなくてはいけない
- できるところから、早く取り組むべき
- 仮置場は3年で片付くのか不安。農業の再生には、長期的な置き場を考えていくことも必要ではないか



4. 閉会

重点プロジェクト、復興再生への取組み（意見交換）

	上葛尾・下葛尾地区	村全体・その他
① 重点プロジェクトの内容について	再生可能エネルギー ・メガソーラーを本気になってやらないとだめ ・売ることを前提ではなく、自分たちで使うエネルギーをつくる ・大手企業がメガソーラーをつくっても地元にお金が入らない ・ソーラーシェアリングは農地法大丈夫？ →営農していれば OK ・村民のエネルギー代をゼロにする 転作 ・農地除染の跡地の転作を考えなくてはいけない ・下葛尾の水田は約 20ha。仮置き場で半分以上もっていられる。残りは湿田ばかり、畑はできない ・水田をやるにしても食用米はむずかしそう ・土がやせているから豆類はできる ・スイートソルガムは、バイオ燃料としては良いが、セシウム吸着効果はあまりない様子 集落営農・法人化 ・農業の体系を変えなくてはならない。大規模化、法人化を進めなくてはならないことは理解できる ・農地を借りたい人に、みんなが快く貸せるか心配	畜産の再生 ・草を食べさせられるようにならないといけない。当面はできないのではないのか
② 復興再生への取組み全般について	仮置き場 ・環境省は農業、葛尾をつぶす気か。3 年で本当に仮置き場を片付けるのか ・3 年が、6 年、10 年になるのではないか ・中心地を仮置き場にすると、農業の再生は難しい ・環境省と復興庁の縦割りを感ずる ・仮置き場が帰還人口を減らすのではないか。農業委員会も問題視している ・除染物を国有林にもっていくことも考えるべき ・山を切って仮置き場にしたい。整地すれば仮置き場に使える場所はいくらでもある できるところからはじめる ・良いことでも、できないことを考えてもしかたない ・このままでは復興はできない ・何かちょっとでもできるところから、始めなくては ・若い人がやる気がない。我々が取り掛からなくてはならない ・動きたいという人が 5 年先にはいなくなる。1 年、2 年でもできるだけ早く動かないといけない ・下葛尾の共同農地の構想（資料）は、仮置き場の撤去後にめざす 「食」「水」「エネルギー」の確保 ・帰る人は高齢者ばかりになる。生活するための「食」「水」「エネルギー」を村内に確保することが最重要である	

第4回 地区協議会（岩角地区・大笹地区ブロック）の記録

日 時：平成26年3月15日（土）16:30～18:00

会 場：中郷仮設集会所

出席者：岩角地区4名

大放地区8名

同席者：9名（葛尾村：4名、支援機構：5名）

1. 開会

2. あいさつ

（支援機構 大内）

- ・本日はお集まりいただきありがとうございます。
- ・地区協議会、テーマ別分科会で議論を重ねてきた内容を、重点プロジェクトとしてまとめた、まちづくり案を示したい。あくまでイメージで、これから庁内で可能性を検討していくものである。安心して帰還できる環境をめざし、落合地区と各地区の拠点づくりを考えている。
- ・皆さんの想いを述べていただきたい。

3. 議事

（1）復興再生に向けての骨子（素案）について【説明】

支援機構より、資料に基づき説明（省略）

（2）復興再生に向けての骨子（素案）について【意見交換】

重点プロジェクトの内容などについて意見交換を実施した。詳細は次頁のとおり。

主な意見

【岩角地区】

- 帰還しても高齢者ばかりになると不安
- 家族が泊まれる場所がほしい
- 不安を減らせるよう、除染、安全な水の確保をお願いしたい、

【大笹地区】

- 住まいの確保、既存施設の復旧、除染、安全な水の確保を優先してほしい
- 観光や交流（宿泊、レストラン、体験、パークゴルフなど）を強化すべき
- 太陽光発電、介護福祉施設で地区の活性化を図りたい
- 計画の内容を実現してほしい

4. 閉会



重点プロジェクト、復興再生への取組み（意見交換）

	岩角地区	村全体・その他
① 重点プロジェクトの内容について	どれくらい帰るの？ 高齢者ばかりで不安 ・集落にはどれくらい帰るのか ・集落（20戸）のうち、半分も戻らない。6～7戸くらい ・高齢者ばかりになると生活が不安 ・空き家が増えていく ・子ども、仕事があると、帰ろうとは考えられない ・三春から自宅に通うのは大変 家族が泊まれる場所 ・子どもが泊まれる家が必要（共同住宅では部屋が足りない） ・集会所に泊まれる機能があるとよい 畜産やりたいが ・家畜をやりたいが、3年かかる ・家畜をやっても販路がない ・ブロイラー4万5千羽やっていた。えさは購入。沢水 10 t / 日	
② 復興再生への取組み全般について	放射線量が高い ・放射線への不安があると帰れない ・山林除染をしっかりとやってもらいたい ・外より室内の方が高いところもある ・試験栽培では、米は食べられる。キノコは桁違いの数値 水の確保 ・深井戸も水がでるのか不安 ・水の安全確保を最優先してほしい 買い物 ・集落に戻っても買い物ができない。（以前は浪江まで 25 分）	役場の考えは ・役場が村で再開する時期はいつなのか ・住むところが三春町と分かれたらどうなるの ・村と相談できる窓口がほしい

重点プロジェクト、復興再生への取組み（意見交換）

大笹地区	
① 重点プロジェクトの内容について	優先すべきこと ・ 復旧事業（元の状態に） → 既存施設を有効活用して復興スタートさせる ・ 除染のスピードアップ ・ 安全な水の確保（水道、井戸） 観光交流の強化 ・ 各地区の観光交流の強化が必要 ・ 農家民泊（ショートステイ型） ・ 普通の民家や生活を活かした宿泊が有効ではないか ・ 観光体験のカリキュラムの充実を ・ 観光ボランティア等のコーディネーター育成が必要 地区の活性化 ・ ソーラー発電による売電 → 土地を人に貸したくない ・ 大笹に高齢者福祉施設がほしい
② 復興再生への取組み全般について	プランの実現に向けて ・ 時間がかかってもプランの内容を実現していくべき ・ 早く事業化してほしい ・ より具体的に掘り下げて、議論や対話を重ねていくべき

第4回 地区協議会（広谷地地区）の記録

日 時：平成26年3月17日（月）18:00～20:00

会 場：葛尾村役場三春出張所 大会議室

出席者：8名

同席者：8名（葛尾村：2名、支援機構：6名）

1. 開会

2. あいさつ

（支援機構 大内）

- ・本日はお集まりいただきありがとうございます。
- ・地区協議会、テーマ別分科会で議論を重ねてきた内容を、重点プロジェクトとしてまとめた、まちづくり案を示したい。あくまでイメージで、これから庁内で可能性を検討していくものである。安心して帰還できる環境をめざし、落合地区と各地区の拠点づくりを考えている。
- ・皆さんの想いを述べていただきたい。

3. 議事

（1）復興再生に向けての骨子（素案）について【説明】

支援機構より、資料に基づき説明（省略）

（2）復興再生に向けての骨子（素案）について【意見交換】

重点プロジェクトの内容などについて意見交換を実施した。詳細は次頁のとおり。

主な意見

- 仕事がないと若い人は帰らない。高齢者ばかりになるので不安
- 生活をどうするのか、土地をどうするのか見えない不安
- 何をするのか集落で話し合う、動いてみるのが大切ではないか
- 集落での農業・草刈、除染作業を仕事にしてはどうか
- 皆が集まる、利便性を確保する道の駅があるとよい
- 味噌づくり・凍み餅をやりたい



4. 閉会

重点プロジェクト、復興再生への取組み（意見交換）

	広谷地地区	村全体・その他
① 重点プロジェクトの内容について	仕事がないと帰らない - 仕事がないと、若い人は帰還を考えられない - 地域の経済を良くしないと生活できない 2地域居住 - 村外に居住（2地域居住）しても村に立ち寄ってもらうことが大切 水耕栽培 - 水耕栽培を考えてほしい - 川内村では工場をつくっても働く人がいない（収入が安いから？） - 川内村の工場を見学したい 高齢者ばかりになる - 高齢者ばかりでどうやって移動するのか心配 - 集落内、村外からのサポート体制が必要 - IT・GPSなどをつかって安否確認できる仕組みが必要 - 介護の人材が不足 まず動き出す - 成人式、中学生など、子どもは素直な気持ちを話している。大人達がプレーキになっているのではない - 広谷地を元に戻すには、一歩動いて、もりあげるしかない - 動いたら、次にPR - やる気をださせる「アメ」施策を - 困っていることをまず言う - お年寄りが「できること」を集める - リーダづくり、みんなが社長の心構え 集落で話し合い - 何をするのか、地区で本音を話し合わなくてはいけない - 自助共助が必要 - 帰る人、帰らない人が話し合うことは難しい。わけてかんがえてはどうか - 帰らないとは、誰もはっきりいわない 集落で仕事を組織化 - 行政から仕事を発注してもらう 1人なら苦しいが、3人なら楽しい。文殊の知恵。好きなもの、やれることをやってみる - 緊急雇用の制度を活用 ○農業、草刈り ⇒農業の法人組織（買い上げてもらう） ⇒水稻の加工品 ⇒草刈りの管理、花植えなどの環境整備を仕事に ○除染（集落の仕事に） ○せせらぎ荘 ⇒村民で支える	道の駅 - 村民が帰還した際の拠り所として整備してほしい - 集まって話をする場所、利便性を高める場所 - 葛尾村は人が通過する立地ではない。道の駅にどれだけ人がきてくれるのか →村民が利用、リピーターを集めるだけでもよい 味噌づくり・凍みもち - 味噌づくり、凍みもちをやりたい →活性化センターに設備がある。おふくろフーズでがんばっている
② 復興再生への取組み全般について	生活をどうするのか、土地をどうするのかみえない不安 - 土地をどうするのか、持っても使い道がない - 土地が荒れていく、自分も年をとって、周りもいなくなる - 葛がはびこる - お年寄りが、1件、1件、生活できる見通しが必要。施設云々ではない 除染からの安全確保 - 除染した農地で安全な作物をつくれるのか - 試験作付けの実験を始めるべき - 除染後に復活させるエリアを決める - 草を家畜にたべさせられるのか	アンケート - アンケートは就労（自分ができるところ）を問う形で - ある段階にならないと判断できない - 聞き取りはどうか - アンケートはうんざり。字を書きたくない - 川内村に人が戻らないのは便利になれてしまったからか。先行地域を検証してみてもいい